



コンテナ取扱量が約3倍に

増え続ける国際コンテナに対応

管理システムによって作業効率が劇的に改善されたことで、これまで35,000TEUだったコンテナ取扱件数が100,000TEUにも対応可能に。他港との競争率強化につながりました。



以前は貨物搬出のトラックが長時間待機しなければならない状況もありましたがそれも解消されました。

紙ベースや電話のやり取りでは防ぎきれなかった人的ミスもなくなりました。



ものづくりへの想い

ここから世界にものが出ていき、世界からここにもものが入ってくる。そんなダイナミックな場所で貿易に携われているのが何よりのやりがいです。今後も宮崎はもちろん日本のためにも貢献していきたいですね。

今後の展望

現在、細島港は南九州の玄関口として機能していますが、九州中央道が全線開通すれば九州の玄関口になれる可能性を秘めています。やがてくるその日のためにも港の振興にさらに尽力していきます。

【細島港荷役振興 株式会社】

競争力強化で細島港を九州の玄関口へ

紙の作業書ベースで行われていた細島港の管理運用にシステムを導入することで作業効率が大幅に改善。港の可能性が大いに高まりました。



代表取締役

三輪 純司

みわ じゅんじ

革命をもたらした一元管理システム

東

九州沿岸地域のほぼ中央にある日向市に位置し、古くから海上交通の要衝として重要な役割を果たしてきた細島港。同社は昭和39年の設立以来、コンテナヤードの管理運営を請け負ってきたのですが、近年、作業効率改善の必要に駆られていました。

「これまで荷役担当のドライバーへの指示など貨物の管理を紙ベースで行ってきました。さらに、貨物が今どこにあつてどのような作業が行われているのかなどを電話や目で確認しなければならず、行き違いが発生するリスクを抱えていました。そんな中、海外からの貨物の取扱量が増え続け、これまでのやり方ではとても対応できない状況になっていったんです」

そ

ここで同社が導入したのがコンテナヤード管理システムです。

「港に陸揚げされた貨物の状況をコンピュータの画面で一元管理できるとともに、各セクションと情報をリアルタイムで共有できるようになり、一切の作業の無駄がなくなりました。その結果として取り扱える貨物の量が増えたことで細島港の競争力を強化することができ、これからが楽しみになりました」

作業効率が格段に改善されたことで人材不足解消や働き方改革、さらにはペーパーレス化や待機トラックの排気ガス減によるCO2削減など、革命といってもいいほどのインパクトをもたらした管理システム。IT化がさらに加速していく今後、さらなる活躍が期待されています。

case
03

港湾運送業

細島港荷役振興 株式会社

設立：1964年
代表取締役：三輪 純司
資本金：1,200万円
事業内容：曳船事業、

従業員：9名

ガントリークレーンのメンテナンス、
緑地管理及び清掃環境整備事業

〒883-0062
宮崎県日向市大字日知屋17731番地2
TEL.0982-52-4527
FAX.0982-52-4530
<http://hososhima-port.com/>

